東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

プラハ日本人学校における教頭の役割と実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新谷,太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174018

プラハ日本人学校における教頭の役割と実践

前在チェコ日本国大使館付属プラハ日本人学校　教頭
板橋区立赤塚第一中学校　副校長　新　谷　太　郎

キーワード：プラハ、安全対策、教頭

1．はじめに

2013年4月から2016年3月までチェコ共和国のプラハ日本人学校に教頭として赴任してきた。勤務してみると、日本国内とは違う在外教育施設特有の教頭の職務もあり、この機会にその一部を報告し、今後、在外教育施設で勤務する方の参考にしていただきたいと思い寄稿した。

2．プラハ日本人学校

中央ヨーロッパにあるチェコ共和国は、面積は北海道とほぼ同じで、人口は約1千万人、公用語はチェコ語、欧州連合（European Union）に加盟している国である。首都プラハは北海道よりも北の北緯50度に位置するため、日照時間は日本と大きく異なり、夏は朝4時から明るくなり、夜は21時まで明るい。逆に冬は朝7時を過ぎても薄暗く16時には暗くなってしまう。気温も8月に30度を超える日が1週間程度あったが、冬は最高気温が氷点下の日もあり、日本の自然環境とは大きく異なり、担当教員が生活科や理科の教材を探すのに大変苦労していた。

プラハ日本人学校は1980年に日本人学校としての認可を受け、児童生徒数18名で開校した。以来、児童生徒の数は増え続けてきたが、リーマンショックを境に減少し、2015年は約90名、派遣教員12名の学校になった。

「百塔の都」と言われるプラハは、街並みにおいて第2次世界大戦の戦禍を受けることなく、プラハ城や教会、石畳の道が残り、1992年にプラハ歴史地区は世界遺産に認定された。街中には歴史的文化遺産が多数あり、これらを活用したウォークラリーなどの学校行事も行ってきた。また、第2次世界大戦中にはプラハ市に近いリジツェ村でドイツ軍による村人の虐殺が行われ、毎年6月に平和祈念式典が開かれ2015年には閉会式に小学部の児童が参列し、合唱を披露した。この他にも、小学部6年、中学部2年の修学旅行はそれぞれドイツのドレスデン、ベルリンに行き、平和についての学習を行っている。

3．教頭職の主な職務内容

(1) 学校運営委員会

私立学校である在外の教育施設には、学校運営委員会がある。プラハ日本人学校にも、チェコ日本人会より学校運営委員長、副委員長が派遣され、日本国大使館からは公使、領事、PTAから代表2名、日本人学校からは校長と教頭が出席し、月1回、学校運営について検討を重ねた。

(2) 教科指導

小中学部とも各学年1学級の9学級編成のため、校長、教頭、教務主任以外の9名が担任となり、校長、教頭も授業を担当した。私も2013年度、2014年度は中学2年、3年の数学を合わせて9時間、2015年度は中学3年の数学を5時間担当した。

(3) 施設管理　備品管理

1980年にプラハ日本人学校として認可を受けてから児童生徒数の増加に伴い校舎移転を3回行って現在の校舎に至っている。現校舎は、2004年にチェコ日本人会が土地、建物を購入し移転した。それ以前は、ドイツ人地区にあるドイツ人学校だったため、校舎内は日本の学校と違って教室が壁で細かく区切られていたため改修を行ってから移転したが、今でも校内に「流し」はなく代わりに教室に洗面台があったり、廊下に窓がなかったりと日本と違う点もある。この他、10月から5月まで稼働させる24時間運転の集中給湯暖房装置が地下にあり、

現地採用職員とともに管理に当たった。

多くの派遣教員が２年または３年で日本に戻ってしまうため、教員によっては担当していない学年の教材や備品について保管場所、使用方法などを知らないこともあり、教頭として教材、備品の管理し、有効活用できるよう教員に指示を出すこともあった。

集中給湯暖房システム管理装置

プラハ日本人学校　正門付近

４．安全・対テロ対策

在外の教育施設に子どもを通わせる保護者の願いは、学力向上と子どもの安全な学校生活である。今回の派遣中、2015年１月にフランスで連続テロが起こり、それ以後も、ヨーロッパでテロが起こり続けている。学校では、日本国大使館と連携し情報収集、並びにセキュリティの強化に努めた。以下に、安全対策をまとめた。

１月　フランスでテロ発生

１月　大使館より安全担当者来校。

　　プラハ日本人学校の安全体制について確認。

２月　学校運営委員会

　　日本国大使館からの日本人学校に対してのアドバイスを報告。安全対策について以下のことを検討。

　　①学校の外周のフェンスの嵩上げ（当時１mのものを２mまで高くする。）

　　②夜間も含め外周すべてを監視できる監視カメラの増加と設置。

　　③英語を話すことができる警備員配置の契約。

　　④大使館よりチェコ国家警察へパトロール強化の依頼。

　　※③④については、学校運営委員会の決定によりすぐに対応。

４月　学校外周フェンスの嵩上げ工事開始（現地業者へ施工依頼）

６月　学校外周フェンス嵩上げ工事、校舎１階窓の飾り格子設置完了

　　海外帰国子女教育振興財団に安全対策援助を申請

８月　監視カメラ、監視システム設置完了

　　海外子女教育振興財団の安全対策援助決定

５．おわりに

私にとって今回の派遣は２回目で、１回目は2003年度～2005年度まで中国の広州日本人学校に教諭として派遣された。今回は教頭での派遣となり、派遣教員、現地採用教職員、備品など、さまざまな人、物の管理などがおもな職務のうちの一つであった。安全対策に関する職内容は本報告の通りだが、現地業者のチェコ人との交渉、契約など、細部については通訳に入ってもらい進めていった。工事中には、作業員に対するセキュリティ、施工費用の支払い方法など、その都度、検討事項が発生し実行してきた。自分自身、これらの点では、児童生徒とは違った国際理解を体験することができた。

最後は工事が終了し、支払いを済ませることができたが、学校運営員の委員長、副委員長、チェコ日本人会の役員の皆様、在チェコ共和国日本国大使館等の政府関係の皆様には本当にお世話になった、この場を借りてお礼を申し上げたい。また、このような機会を頂いた文部科学省をはじめ、東京都教育委員会、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げる。